

# Windows 10の 社内での導入を 1人でやってみる。

IT担当者の  
ための

**Windows 10 イチから導入ガイド**  
～必要な要件の確認と、インプレースアップグレードの実践～



テン先輩

# 本ガイドブックの対象ユーザー

このガイドブックは、Windows 10 のライセンスをお持ちで、これから Windows 10 の導入と展開を行う企業の IT ご担当者様を対象としています。以下が対象となるライセンス条件ですのでご確認ください。

## 対象となるライセンス条件

### ボリューム ライセンス 契約ユーザー



ボリューム ライセンス プログラムを通じて、  
Windows 10 Pro /  
Windows 10 Enterprise の  
アップグレード ライセンスを入手された方

### Windows 10 ライセンス 購入ユーザー



Microsoft Storeなどの小売店で、  
Windows 10 Pro の  
ライセンスを購入された方

### MSDN サブスクリプション 契約ユーザー



MSDN サブスクリプションにより、  
Windows 10 Pro /  
Windows 10 Enterprise を  
ダウンロードされた方

# もっと安全で快適な Windows 環境を、すべての社員へ。

次々と生み出される新たなテクノロジーに対応し、高度化するセキュリティの脅威から大切なビジネスを守るために、Windows 10 では最新のセキュリティを搭載し、さらにアップデート方式を一新するなど大きな進化を遂げています。この冊子は、Windows 10 の導入に必要な要件から、既存の環境がそのまま引き継げるインプレースアップグレードによる導入までをご紹介します。より良い Windows 環境をすべての社員に提供するために、さあ、今すぐ始めましょう。



# CONTENTS

## IT担当者のための Windows 10 イチから導入ガイド

### 準備編 ①

「インフラ側の要件」  
を確認する

5 ページ～

Active Directoryやライセンス  
認証など、Windows 10を導入  
する際に必要となるインフラ側  
の要件を確認しよう

### 実践編

Windows 10への  
アップグレードを実行する

23 ページ～

全社への導入を想定して、  
まずは自分でインプレース  
アップグレードを行ってみよ  
う。さらに展開方法について  
も考えておこう

### 準備編 ②

「クライアント側の要件」  
を確認する

15 ページ～

Windows 10のインストール  
方法は? エディション別の違い  
は? クライアント側でチェック  
しておくべき要件を見ていこう

### お役立ちトピック

困ったときは  
ここをチェック!

33 ページ～

導入したWindows 10を  
以前のバージョンに戻す方  
法など、困ったときに役立つ  
情報をチェックしよう

心配すんな  
オレが  
付いてるぞ



### テン先輩

某社のIT部門に勤める  
ベテラン社員。IT知識が豊富で、  
後輩のどんな難しい質問にも  
分かりやすく答えてくれる。  
頼れる先輩だが、  
ちょっとお茶目な一面も…

## 準備編 ①

# 「インフラ側の要件」 を確認する

Windows 10 の導入と展開を進めるにあたり、  
まず最初に行わなければならないのが「インフラ側の要件」を確認すること。  
ここでは、ドメインに参加させるための要件や、  
ライセンス認証に関するサーバー要件、新たに採用された  
更新プログラムの管理方法などについて確認していきます。



# 「インフラ側の要件」を確認する

## 1. Active Directory

Windows 10 を  
Active Directory の  
管理下に置くために



企業のドメインに参加させるための要件や、  
新たに追加されたグループポリシーを適用するための  
手順を確認しましょう。

7 ページへ

## 2. ライセンス認証

今ある認証の  
仕組みはそのまま  
利用できる？

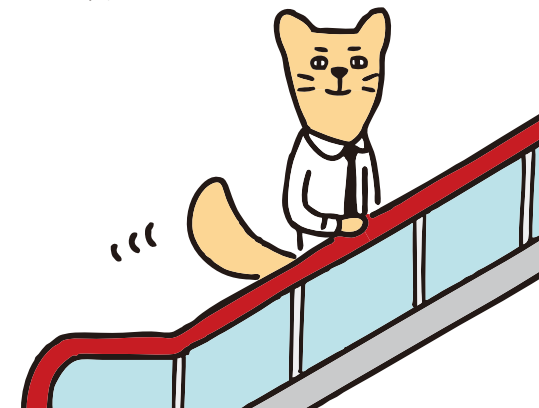


企業向けのライセンス認証方法  
「ボリューム アクティベーション」の種類と、  
それぞれの要件を確かめましょう。

9 ページへ

## 3. 更新プログラムの管理

Windows 10 から  
アップデート方式が  
大きく変わる？



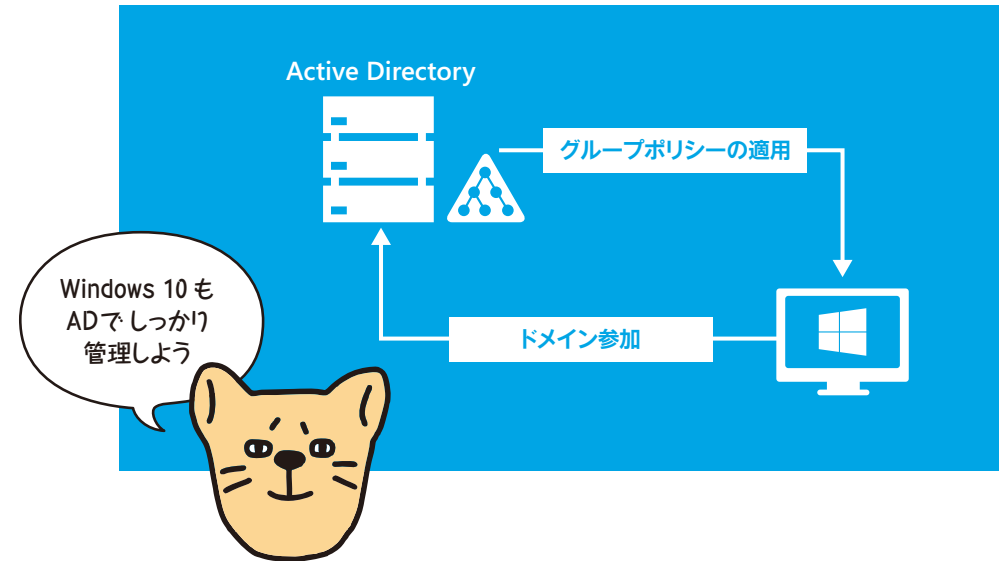
PC の用途や展開のタイミングなどから、  
自社の組織にマッチする最適な  
アップデートモデルを選びましょう。

13 ページへ

## 1. Active Directory-①

# ドメイン参加に必要な要件と、 グループポリシーの適用方法は？

Windows 10 を企業で活用するためには、Active Directory の設定が必要です。ここでは、Windows 10 のコンピュータをドメイン参加させるために必要な要件と、Windows 10 で新たに追加されたグループポリシーを適用するための手順を確認します。



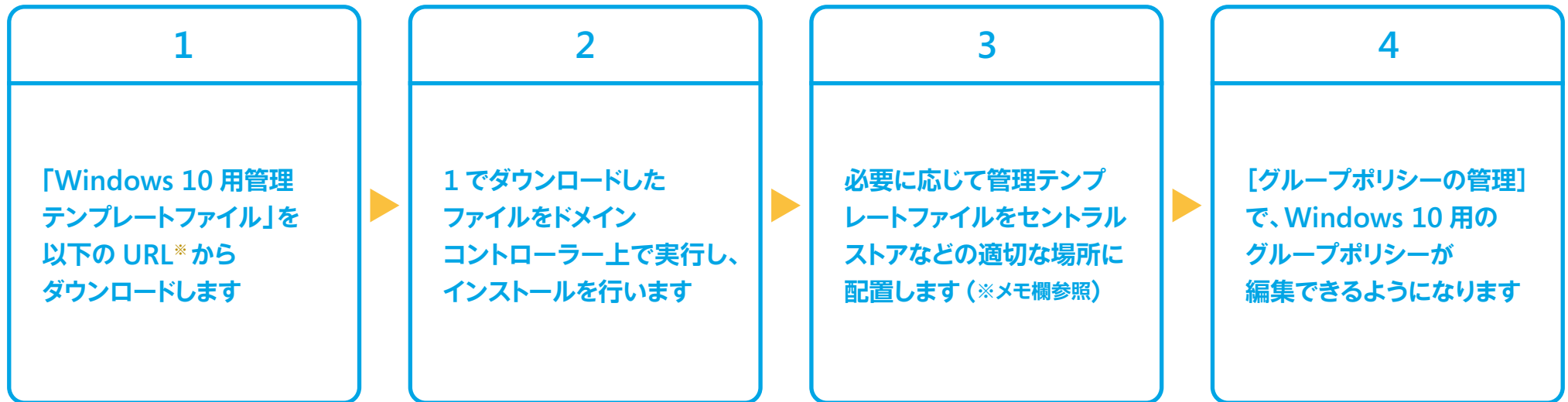
## ドメイン参加させるために必要な要件は？

☑️ ドメインコントローラー上で実行する OS ➡ Windows Server 2008 以降<sup>※1</sup>

☑️ ドメインおよびフォレストの機能レベル ➡ Windows Server 2003 以上

※1 Microsoft Passport による認証を実装する場合は、Windows Server 2016 Technical Preview が必要です。

## 新しいグループポリシーを利用するには？



\*こちらの URL からダウンロード

<http://www.microsoft.com/ja-JP/download/details.aspx?id=53430>



### 管理テンプレートファイルの配置場所は？

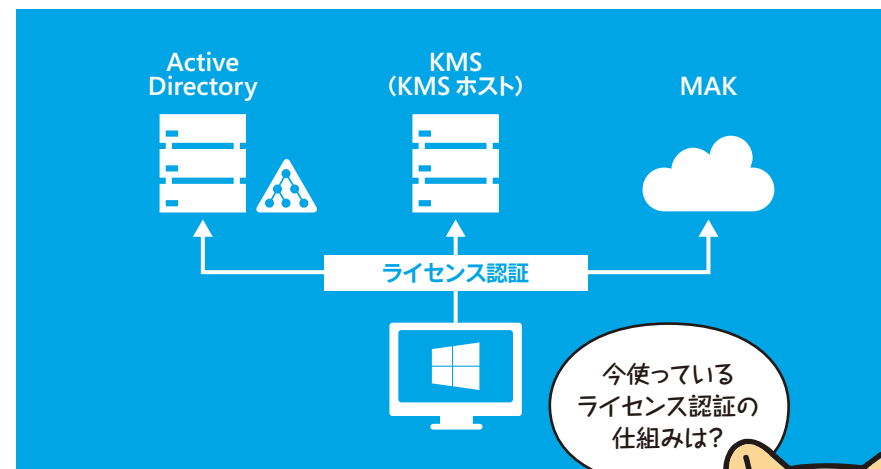
Windows 10 の新しいポリシーを使用するには、  
管理用テンプレートをドメインコントローラー上のセントラルストアに配置します。

▶ %systemroot%\sysvol\domain\policies\PolicyDefinitions



## 今あるボリュームライセンス認証の仕組みがそのまま利用できます

企業向けのライセンス認証方法には、「ボリューム アクティベーション」と呼ばれる以下の3つの方法があります。すでにボリューム アクティベーションの仕組みをお持ちであれば、その仕組みを利用して Windows 10 のライセンス認証を行うことができます。



### マイクロソフトが提供するボリューム アクティベーション

#### Active Directory によるライセンス認証

Windows 8.1 以降および Windows Server 2012 以降のドメインに参加しているコンピュータに対して、自動的にライセンス認証を行います。

10 ページへ

#### キー管理サービス (KMS) ライセンス認証

Windows 7 や Windows Server 2008 R2 を実行するコンピュータが含まれる環境でも、ライセンス認証を自動化することができます。

11 ページへ

#### マルチライセンス認証キー (MAK) ライセンス認証

Active Directory 環境が構築されていない場合や、KMS を利用するために必要な台数を満たしていない場合などには MAK を利用します。

12 ページへ

## Active Directory によるライセンス認証

Windows 8 から、Active Directory ドメインを介してライセンス認証が行える新しい方法が導入されました。  
この方法を使えば、KMS に必要なインフラが整備されていなくても、ライセンス認証およびライセンス管理を集約して行うことができます。

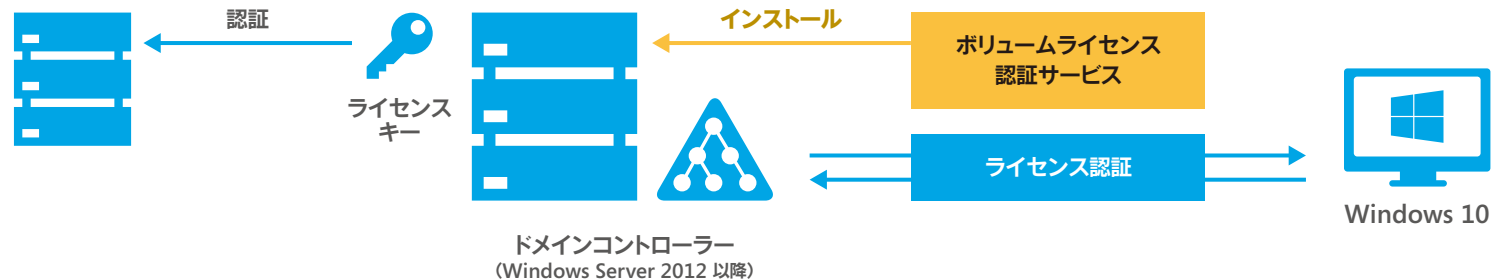
### 認証サーバーの要件

- ☑ Windows Server 2012 以降を実行するドメインコントローラーに、[ボリュームライセンス認証サービス] 役割がインストールされている必要があります。
- ☑ ライセンスキーがインストールされ、認証されている必要があります。

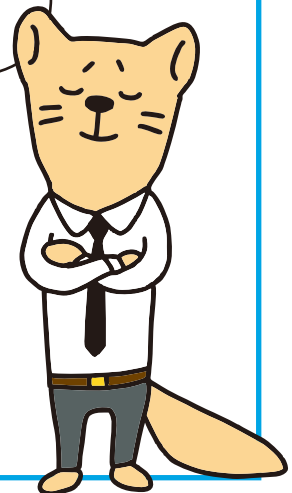
### クライアントの要件

- ☑ Windows Server 2012 以降、もしくは Windows 8.1 以降を実行している必要があります。
- ☑ Active Directory ドメインに参加している必要があります。

### Active Directory によるライセンス認証の実行イメージ



Windows 8 や  
10 で使える  
方法だ



## キー管理サービス (KMS) ライセンス認証

KMS ライセンス認証では、KMS ホストと呼ばれる認証サーバーを構築し、マイクロソフト ライセンス認証サービスに接続して、KMS ホストの認証を 1 度だけ行います。KMS ホストは他のサービスと共存させることができるため、専用サーバーである必要はありません。

### KMS ホスト (認証サーバー) の要件

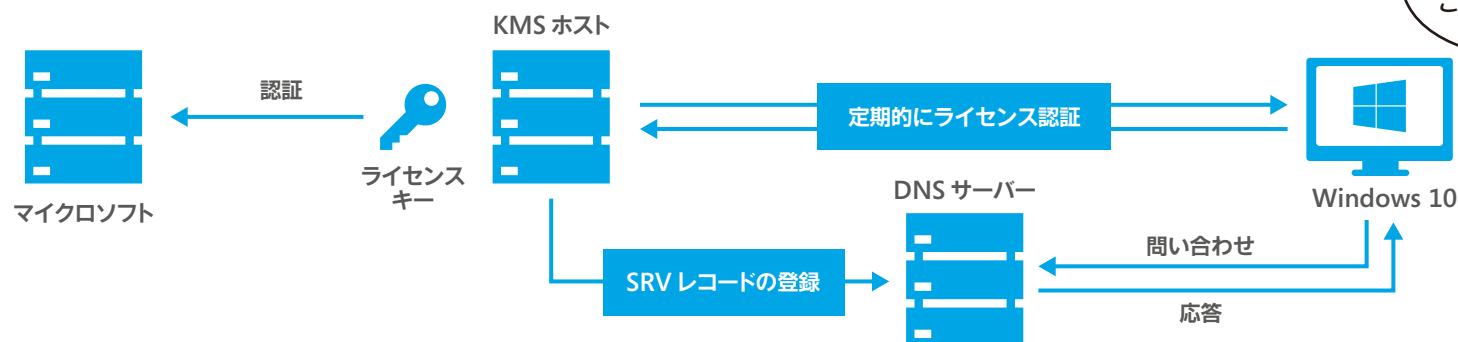
- ☑ Windows Server 2012 以降 もしくは、Windows 8.1 以降が実行されている物理マシン もしくは仮想マシンが必要です。<sup>※1</sup>
- ☑ KMS ホストに、KMS キーがインストールされ、ライセンス認証されている必要があります。

### KMS クライアントの要件

- ☑ Windows Server を実行する物理マシン、もしくは仮想マシンが 5 台以上
- ☑ Windows クライアントを実行する物理マシン、もしくは仮想マシンが 25 台以上

※1 Windows 10 を実行するコンピュータを KMS ホストが認証するためには、Windows Server 2012/2012 R2、もしくは Windows 8.1 を実行する KMS ホストに、次の更新プログラムが適用されている必要があります。  
<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/3058168>

### KMS によるライセンス認証の実行イメージ



Windows 7 の  
ライセンス認証にも  
これなら対応できる



## マルチライセンス認証キー (MAK) ライセンス認証

MAK ライセンス認証では、各コンピュータが個別にマイクロソフトに接続して、それぞれ一度だけライセンス認証を行います。それ以降は、ハードディスク交換や大幅なハードウェア変更がない限り、ライセンス認証を要求されることはありません。

### こんな時に使用します

- ✓ Active Directory 環境が構築されていない場合
- ✓ KMS を利用するために必要な台数を満たしていない場合
- ✓ オフライン端末で、KMS ホストに接続できない場合
- ✓ 180 日に一度のライセンス認証が行えない場合

Active Directory や  
KMS が使えない環境でも  
MAK なら大丈夫



### MAK ライセンス認証の特徴

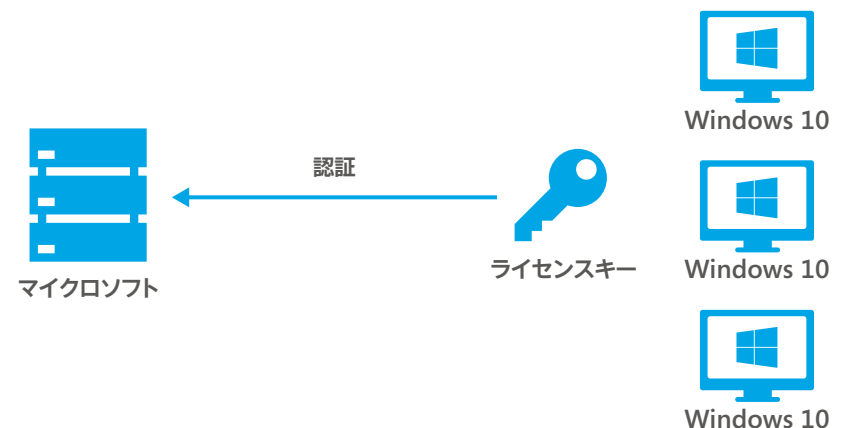


電話、もしくはインターネットを通じて一度だけライセンス認証を行います



大幅なハードウェア変更がない限り、ライセンス認証を要求されることはありません

### 1 つのキーで複数のコンピューターを認証できます



# 新たなアップデート方式 Windows as a Service (WaaS)

Windows 10 から WaaS という新たなアップデート方式となり、セキュリティ更新を行う従来の「品質アップデート (QU)」に加えて、「機能アップデート (FU)」が提供される仕組みに変わりました。Windows 10 では、FU として OS の新しい機能が定期的に、無償で配信されます。

機能アップデート  
**FU**  
Feature Updates

- Windows 10 の機能拡張を行う更新プログラム
- 年数回のペースでリリース予定
- OS のインプレースアップグレードに相当し、OS 全体を対象とした更新

品質アップデート  
**QU**  
Quality Updates

- 月次でリリースされる更新プログラム
- 累積パッチとして、リリースごとに過去の更新プログラムをすべて含む

Windows 10 では 2 種類の更新プログラムを提供

## 2 つの Windows 10 (業務系とミッションクリティカル系)

	用途	更新プログラム	モデル名称
Windows 10 Pro / Enterprise	業務系	FU + QU	CB
			CBB
Windows 10 Enterprise LTSC	ミッションクリティカル系 ※特殊用途 (金融 / 医療機関などの基幹システム) 向け	QU のみ	LTSC

### Current Branch (CB)

- 最新の FU を即適用するモデル

### Current Branch for Business (CBB)

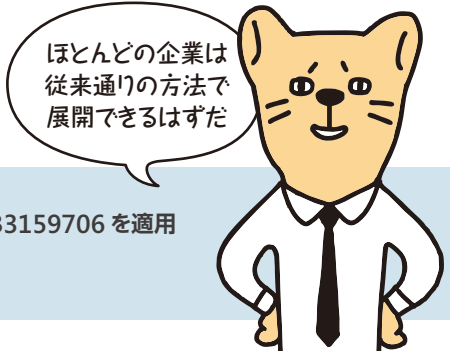
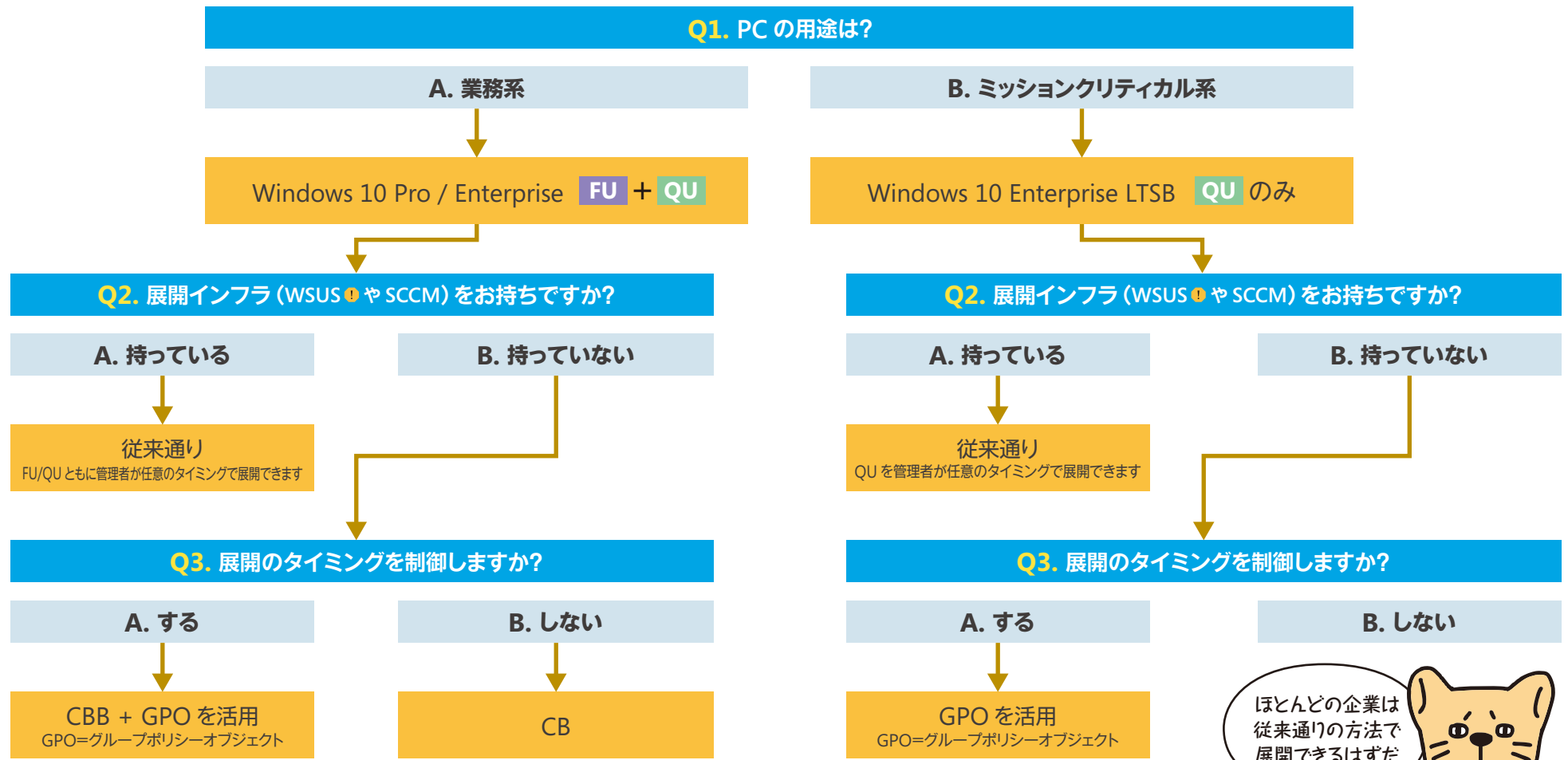
- FU の初期リリースから 4 か月後にリリースされる安定化した FU を適用するモデル
- 2 世代先の FU がリリースされてから 60 日後までサポートを提供

### Long Term Service Branch (LTSC)

- QU のみを適用するモデル
- リリース後最長 10 年間のサポートを提供

Windows 10 には、FU と QU が提供される「Windows 10 Pro / Enterprise」と、QU のみが提供される「Windows 10 Enterprise LTSC」という 2 つの種別があります。PC の用途 (業務系またはミッションクリティカル系) に合わせて最適な製品をお選びください。

## 最適なアップデートモデルを確認する



**!** Windows 10を管理するためのWSUSの要件

- WSUS 6. x 以降 (Windows Server 2012 以降の Windows Server) に KB3095113 および KB3159706 を適用
- IIS の設定で拡張子「. esd」に「application/octet-stream」が定義済みであること

## 準備編 ②

# 「クライアント側の要件」 を確認する

Windows 10 の導入をスムーズに進めるためには、クライアント側の要件もしっかり確認しておく必要があります。ここでは、いくつかある Windows 10 のインストール方法や Windows 10 Pro / Enterprise という各エディションの機能比較、32 ビット版と 64 ビット版の違いなどについて確認します。



# 「クライアント側の要件」を確認する

## 1. インストール方法

今使っている環境を  
Windows 10 に  
そのまま引き継げる？

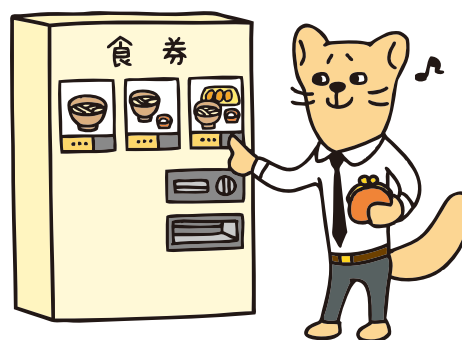


既存の環境をそのまま引き継ぐことができる  
「インプレースアップグレード」を中心とした  
インストール方法と、その要件を確認しましょう。

17 ページへ

## 2. エディション

Windows 10 では  
どのエディションを  
選ぶべき？

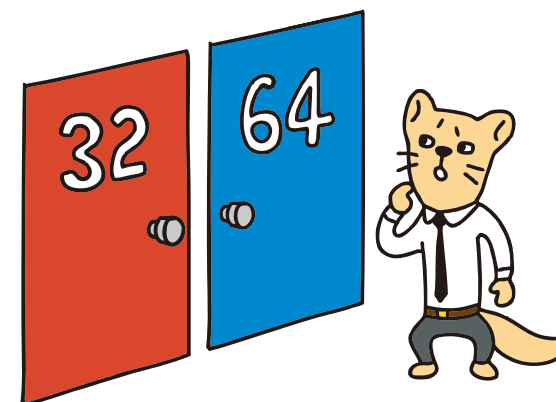


Windows 10 Enterprise か、Windows 10 Pro か。  
最適なエディションを選ぶために  
エディション別の機能をチェックしましょう。

20 ページへ

## 3. 32ビットと64ビット

うちの会社の場合は…  
32ビットなの？  
64ビットなの？



32ビット版と64ビット版があるWindows 10。  
その確認方法と、それぞれの  
メリット・デメリットを押さえておきましょう。

22 ページへ



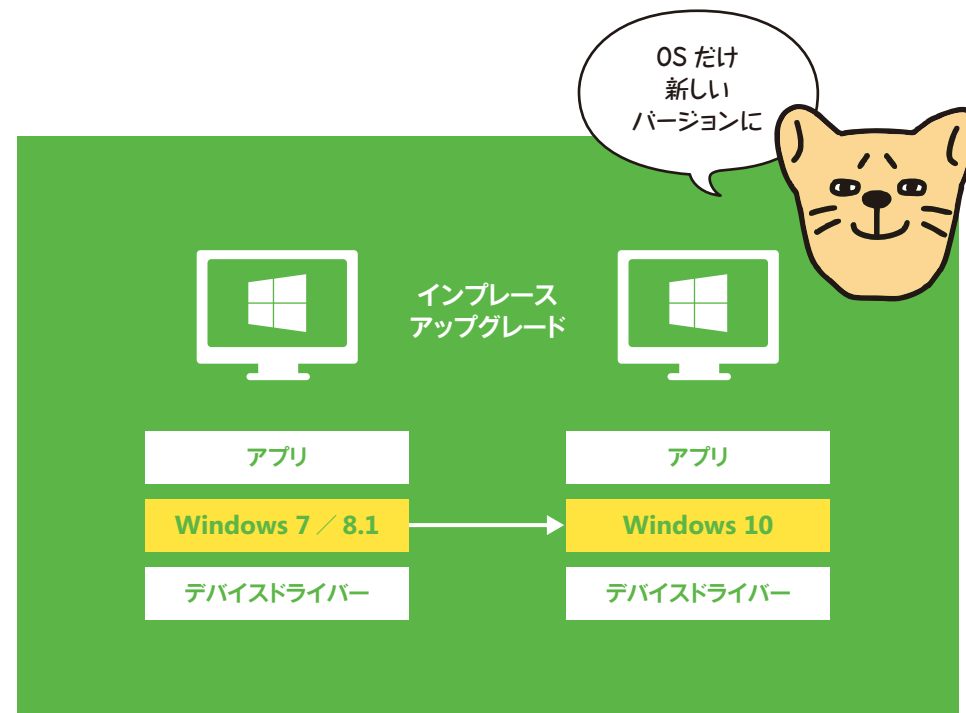
## 1. インストール方法 ①

# 既存環境がそのまま引き継げる インプレースアップグレード

インプレースアップグレードは、既存の OS 環境を維持したまま Windows 10 にアップグレードする手法です。

OS の標準イメージをインストールするだけなので手順がシンプルで、アプリやデバイスドライバ、OS の各種設定などをそのまま引き継ぐことができます。

**SCCM CB、WSUS** ではインプレースアップグレードをサポートするため、より短時間で簡単にアップグレード作業を行うことができます。



## インプレースアップグレード以外の導入方法

### イメージベース展開

イメージベース展開は、従来から OS 展開に用いられている手法です。まずマスターとなる PC のイメージを作成し、そのイメージを展開先のクライアント PC に適用していきます。

#### 特徴

- ✔ 従来の展開の仕組みや方法が引き続き利用できる
- ✔ 組織特有の環境をクライアント PC に展開できる
- ✔ 機種・用途ごとに必要となるイメージの管理が大変

### プロビジョニング<sup>※1</sup>

Windows 10 で新たに取り入れられた手法です。Windows 10 OEM のプレインストール PC に、各種設定などをパッケージ化して適用することで業務用の環境を構成します。

#### 特徴

- ✔ OEM PC をカスタマイズして使用できる<sup>※2</sup>
- ✔ クリーンインストールに比べ工数が削減できる

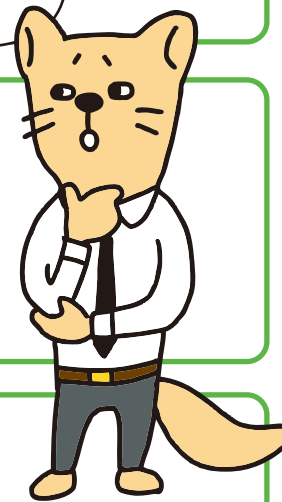
<sup>※1</sup> Windows 7 / 8.1 からのアップグレードには使用できません。  
<sup>※2</sup> カスタマイズの範囲はパッケージ作成ツールにある設定項目に限定されます。

## インプレースアップグレードが適さないケース

以下のような要件がある場合には、インプレースアップグレードを行うことができません。  
その場合は、イメージベース展開など、新規インストール（クリーンインストール）が必要となります。

デバイス	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ ブートプロセスを変更したい (BIOS/UEFI の変更)</li><li>✔ ディスクレイアウトを変更したい</li></ul>
OS	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ アーキテクチャを変更したい (32 ビット /64 ビットの変更)</li><li>✔ ベースとなる言語を変更したい</li><li>✔ 参加するドメインを変更したい</li><li>✔ Windows 7 RTM からアップグレードしたい</li></ul>
アプリ	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ 複数のアプリケーションを変更したい</li></ul>

こんな要件はないかな？



## アップグレードの前に必ずバックアップしましょう

お使いの OS がインプレースアップグレードに対応している場合は、現在お使いの環境を Windows 10 に引き継ぐことができます。ですが、万が一に備えて、現在お使いの PC のデータをバックアップすることをおすすめします。

## Windows 10 へのアップグレードパス

Windows 10 の各エディションにインプレースアップグレードすることができるのは次の Windows OS です。  
Windows 8 からは Windows 10 に直接インプレースアップグレードすることができませんのでご注意ください。

現在使用している OS	アップグレード後
Windows 7 Professional	Windows 10 Pro Windows 10 Enterprise
Windows 7 Ultimate	Windows 10 Pro Windows 10 Enterprise
Windows 7 Enterprise	Windows 10 Enterprise
Windows 8	Windows 8 から Windows 10 へのインプレースアップグレードはできません(※1)
Windows 8.1 Pro	Windows 10 Pro Windows 10 Enterprise
Windows 8.1 Enterprise	Windows 10 Enterprise

※1: Windows 8 は、Windows 8.1 へのアップデートが必要です。



☑ Windows 7 には、Service Pack 1 が適用されている必要があります。 ☑ Windows 8.1 には、Update が適用されている必要があります。

# Windows 10 の エディションについて

Windows 10 は、企業で活用されるデスクトップ／ノート／タブレット向けに2つのエディション※1を提供しています。ビジネス向け機能を備えたWindows 10 Pro、または、セキュリティ機能を強化したWindows 10 Enterprise のどちらかをお選びください。

Windows 10 Pro

セキュリティを重視するなら  
Windows 10 Enterprise が  
ベストな選択だと思う

Windows 10 Enterprise

※1 その他、コンシューマ向けの「Windows 10 Home」、教育機関向けの「Windows 10 Education」があります。また、スマートフォン／モバイル端末向けエディション「Windows 10 Mobile」「Windows 10 Mobile Enterprise」も提供しています。



## エディション別機能比較①

機能	Pro	Enterprise
Cortana ※2	●	●
Windows Hello ※3	●	●
Microsoft Edge	●	●
ドメイン参加	●	●
グループポリシー管理	●	●
BitLocker ※4	●	●
Internet Explorer エンタープライズ モード	●	●

※2 Cortana が使用できない市場があります。エクスペリエンスは地域およびデバイスにより異なることがあります。※3 Windows Hello を使用するには、生体認証ハードウェア（指紋リーダーや IR センサーなどの生体認証センサー）が必要です。Windows Hello 資格情報／キーのハードウェア ベースの保護には、TPM1.2 以上が必要です。TPM が存在しない場合、または構成されていない場合、資格情報／キーの保護はソフトウェア ベースで行われます。※4 TPM ベースのキー保護には TPM1.2 以上が必要です。

## エディション別機能比較②

機能	Pro	Enterprise
Client Hyper-V	●	●
リモート デスクトップ	●	●
DirectAccess		●
Azure Active Directory 参加とクラウドでホストされているアプリへのシングル サインオン ※5	●	●
企業向け Windows ストア ※6	●	●
Windows Hello for Business	●	●
Windows Information Protection	●	●
Device Guard		●
Credential Guard ※7		●
Windows Update for Business	●	●

※5 Azure Active Directory のサブスクリプションが必要です。

※6 使用できない市場があります。機能とアプリは、市場およびデバイスにより異なることがあります。

※7 セキュアブート (Trusted Boot) 対応の UEFI2.3.1 以降が必要です。Intel VT-x、AMD-V、SLAT などの仮想拡張機能が有効である必要があります。デバイスの正常性を確認するには、Windows の x64 バージョン、Intel Vt d や AMD-Vi などの IOMMU、BIOS ロックダウン、TPM2.0 が推奨されます (TPM が存在しない場合はソフトウェアが使用されます)。

■参考 : Windows 10 エディションの比較 <https://www.microsoft.com/en-us/WindowsForBusiness/Compare>

# 32 ビットと 64 ビットについて

Windows 10 には 32 ビット版と 64 ビット版があります。

32 ビット版から 64 ビット版に移行する場合は、インプレースアップグレードが行えませんが、クリーンインストールを行ってください。

## 32 ビット / 64 ビットを確認する方法

1. **【コントロール パネル】** を表示します。
2. 表示されたメニューで **【システム】** をクリックします。
3. **【システムの種類】** で 32 ビット版か 64 ビット版かを確認します。

システム	
製造元:	Microsoft Corporation
プロセッサ:	Intel(R) Core(TM) i7-4650U CPU @ 1.70GHz 2.30 GHz
実装メモリ (RAM):	8.00 GB
システムの種類:	64 ビット オペレーティング システム, x64 ベース プロセッサ

## 32 ビットと 64 ビットの比較

	メリット	デメリット
64 ビット版 Windows	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ 4GB を超えるメモリを認識</li><li>✔ デバイスドライバーの軽量化</li><li>✔ 32 ビット版のアプリケーションも利用可能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ 16 ビットアプリの非サポート</li><li>✔ 32 ビットドライバーの非サポート</li></ul>
32 ビット版 Windows	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ レガシーデバイスを含め、さまざまなデバイスをサポート</li><li>✔ デバイスの互換性</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ 物理メモリが 4GB に制限</li></ul>



## 実践編

# Windows 10への アップグレード を実行する

要件の確認が終わったら、いよいよ実践です。

実践編では、Windows 10 の全社への導入を想定して  
まずは 1、2 台の端末でインプレースアップグレードを行います。  
さらに、自社における Windows 10 の展開方法について  
今お使いの展開ツールも含め、検討していきます。



# Windows 10 へのアップグレードを実行する

## 1. インプレースアップグレード

Windows 10 の  
セットアップを  
体験してみる

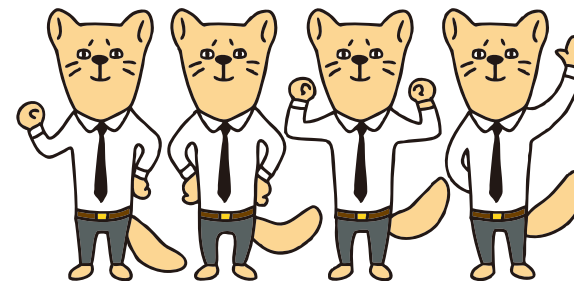


全社への導入を行う前に、まずは検証用の端末で Windows 10 のセットアップを行ってみましょう。

25 ページへ

## 2. Windows 10 の展開

今までと同じ  
ツールを使って  
展開できる？



今お使いの展開ツールも含め、Windows 10 のより良い展開方法について検討していきましょう。

28 ページへ

テンの  
ワンポイント



**Windows 10 の導入方法は？** Windows 10 の導入方法には、以下のように複数の方法が用意されています。

### クリーンインストール

構成に必要な値を予め応答ファイルに定義し、それを読み込みながらセットアップを進めます。組織内で共通の値を設定しておくことで、効率的にセットアップが行えます。

- Windows ADK for Windows 10
- Microsoft Deployment Toolkit (MDT) など

### インプレースアップグレード

OS の標準イメージをインストールするだけなので手順がシンプルで、アプリやデバイスドライバー、OS の各種設定などをそのまま引き継ぐことができます。

- 標準メディアを使った手動アップグレード
- SCCM やアプリケーション展開ツールを使ったアップグレード



## 1. インプレースアップグレード①

# インプレースアップグレードを 実際に行ってみましょう

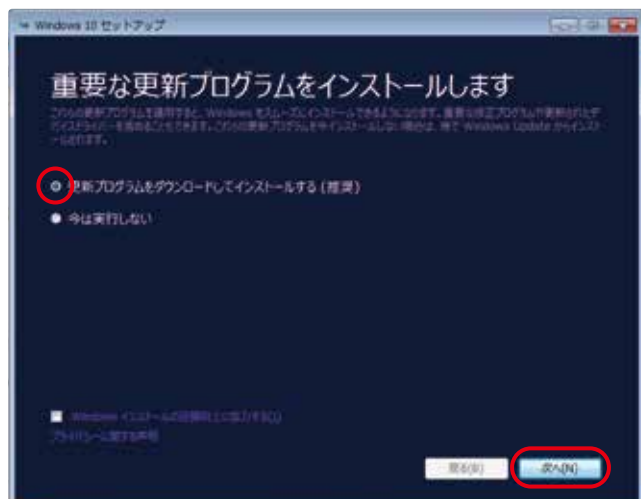
ここでは、Windows 10 の setup.exe を実行してインプレースアップグレードを行う際の手順をご紹介します。  
全社への導入を想定しつつ、まずは 1、2 台の端末でセットアップを体験してみましよう。  
なお、Windows 10 のセットアップ用コマンド一覧は下記のページに記載されています。

▶ <https://msdn.microsoft.com/en-us/windows/hardware/commercialize/manufacture/desktop/windows-setup-command-line-options>

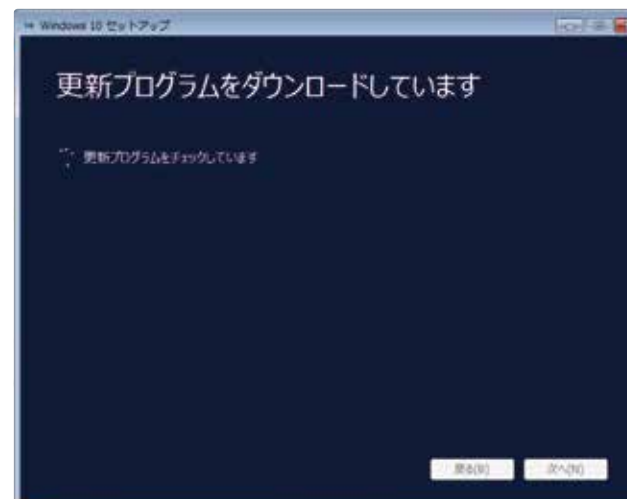
まずは自分自身で  
Windows 10 の  
セットアップを体験だ



## Windows 10 の setup.exe を実行する①



**1** setup.exe を実行すると、左の画面が表示されます。**[更新プログラムをダウンロードしてインストールする(推奨)]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。



**2** 左の画面が表示されます。ダウンロードが完了するまでお待ちください。

## 1. インプレースアップグレード②

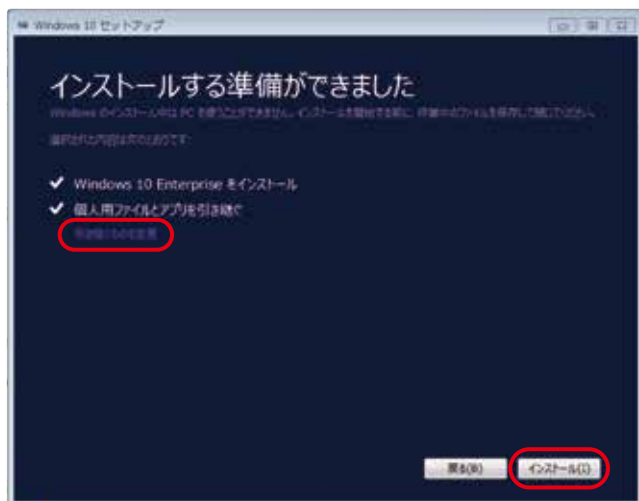
# Windows 10 の setup.exe を実行する②



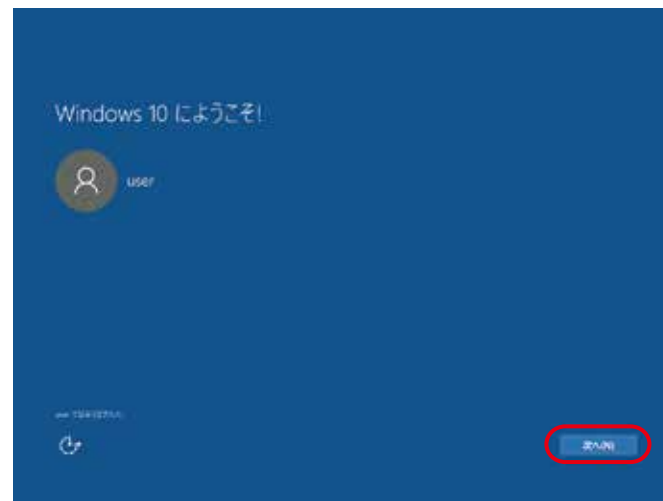
**3** インストールを実行するには、適用される通知とライセンス条項に同意する必要があります。お読みの上、同意したら、**[同意する]**をクリックしてください。



**5** インストールが完了するまでお待ちください。



**4** 画面の中程にある**[引き継ぐものを変更]**をタップすると、**[個人用ファイルとアプリを引き継ぐ]** **[個人用ファイルのみを引き継ぐ]** **[何も引き継がない]**が選択できます。いずれかを選択し、**[インストール]**をクリックします。



**6** 「Windows 10 によるこそ!」という画面が表示されますので、**[次へ]**をクリックします。

# 1. インプレースアップグレード③

## Windows 10 の setup.exe を実行する③



7 左の画面が表示されます。**[簡単設定を行う]** をクリックしてください。自分で設定を行いたい場合は **[カスタマイズ]** を選択してください。



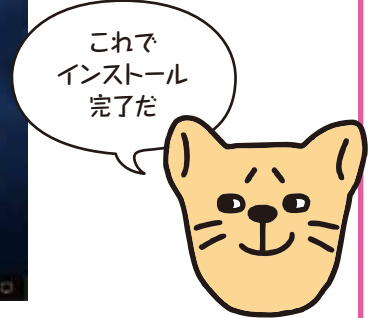
9 個別に規定のアプリを選択したい場合は **[規定のアプリを選択]** をクリックします。既定のアプリを選択しない場合は **[次へ]** をクリックしてください。



8 「はじめまして、Cortana と申します」という画面が表示されます。**[Cortana を使う]** を選択すると Cortana の設定が行えます。**[今は実行しない]** を選択すると先に進みます。



10 スタート画面が表示されます。



# 今お使いの展開ツールを使って 今まで通りの方法で展開できます

Windows 10 の展開には、サードパーティのツールも含め、今お使いの展開ツールが利用できます。Windows ADK、MDT など、マイクロソフトが提供する無償のツールもありますので、この機会に、企業に合ったより良い展開方法について考えてみましょう。

マイクロソフトが  
無償で提供している  
展開ツールもあるぞ



## マイクロソフトが提供する展開ツール

	Windows ADK for Windows 10 29 ページへ	Windows 展開サービス 30 ページへ	Microsoft Deployment Toolkit (MDT) 31 ページへ	System Center Configuration Manager (SCCM) 32 ページへ
展開方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● USB / メディアからのインストール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● USB / メディアからのインストール</li> <li>● ネットワークブート(PXE ブート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● USB / メディアからのインストール</li> <li>● ネットワークブート(PXE ブート) ※ PXE ブートの利用には Windows Server が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● USB / メディアからのインストール</li> <li>● ネットワークブート(PXE ブート)</li> <li>● 稼働中の PC もアップグレード可能</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>● メディアベースの展開が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 応答ファイルによる設定</li> <li>● ネットワーク経由(PXE ベース)での展開が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タスクシーケンスによる設定</li> <li>● アプリ配布等の自動化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タスクシーケンスによる設定</li> <li>● アプリ配布等の自動化</li> <li>● クライアント管理との統合</li> </ul>
規模	小～中規模	中～大規模	中～大規模	中～大規模
無償 / 有償	無償	有償 (Windows Server に含まれます)	無償	有償

# Windows ADK for Windows 10

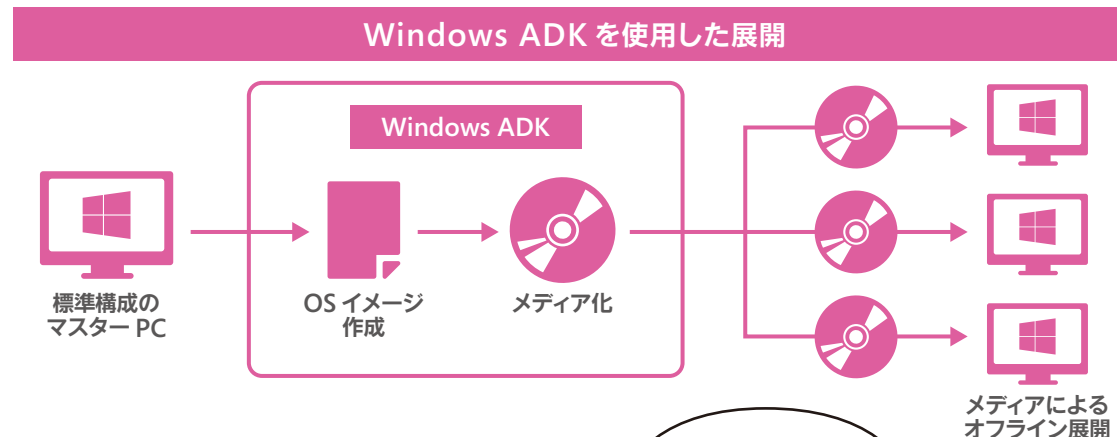
Windows ADK は、展開中のさまざまなステップで特定のタスクを実行する複数のツールとユーティリティをまとめたもので、無償で提供されています。ツールのほとんどはコマンドラインのみで、MDT のような他のツールを実現する技術としても利用されます。

## Windows ADK の特徴

- ✓ 展開に必要なツール類をまとめたツールキット
- ✓ 応答ファイルを作成する Windows SIM や、ブートメディア上で実行される代替 OS などを提供

### Windows ADK に含まれる主なツール

- 展開用ツール
- パフォーマンス評価ツール
- 互換性確認ツール
- ボリュームライセンス認証管理ツール



## Windows ADK のシステム要件

### Windows ADK がインストール可能な OS

- Windows Server 2008 R2
- Windows 7
- Windows Server 2012
- Windows 8 / 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10

### 必要なコンポーネント

- .Net Framework 4.5

### ■ Windows ADK のダウンロード :

<https://developer.microsoft.com/ja-jp/windows/hardware/windows-assessment-deployment-kit>

USB などを使って  
1台1台の端末に  
展開していく方法だ



## Windows 展開サービス

Windows 展開サービスは、ネットワーク経由で Windows OS を展開するサービスです。

Windows 展開サービスで OS を展開するには、Active Directory ドメイン サービス (AD DS)、DHCP、DNS が必要となります。

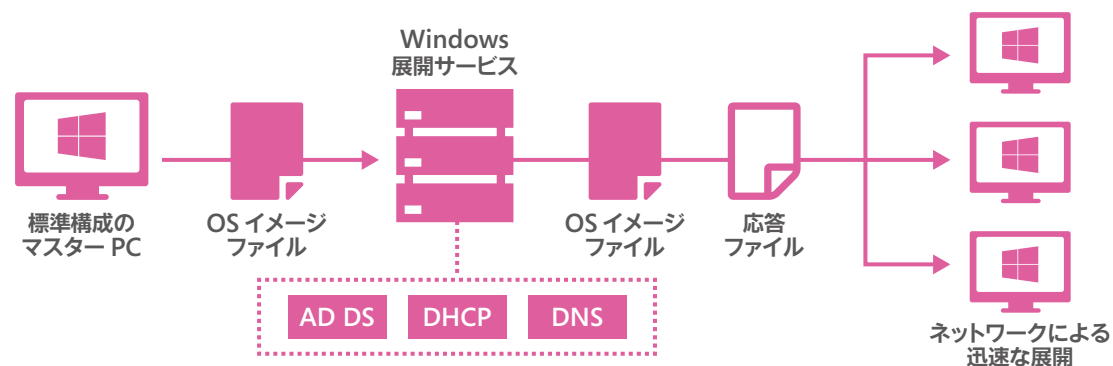
### Windows 展開サービスの特徴

- ✓ Windows Server に含まれる展開サービス
- ✓ ネットワークブート (PXE ブート) をサポート
- ✓ 物理的なブートメディアを必要とせず、  
ライトタッチ展開が行える

Window Server から  
ネットワーク経由で  
展開していく方法だ



### Windows 展開サービスを使用した展開



### Windows 展開サービスのインストールの前提条件

#### Active Directory ドメイン サービス (AD DS)

➡ AD DS ドメインのメンバーであるか、AD DS ドメインのドメイン コントローラーである必要があります。

**DHCP** ➡ Windows 展開サービスでは PXE が使用され、動的ホスト構成プロトコル (DHCP) によって IP アドレスが割り当てられます。したがって、ネットワーク上でアクティブなスコープを持つ有効な DHCP サーバーが必要です。

**DNS** ➡ Windows 展開サービスを実行するネットワーク上に、有効なドメイン ネーム システム (DNS) サーバーが必要です。

# Microsoft Deployment Toolkit (MDT)

MDT は Windows OS の展開を自動化するためのツール、プロセス、ガイダンスを統合したソリューションで、無償で提供されています。  
MDT を使用すると、イメージを標準化できるだけでなく、OS 展開の高度な自動化が実現できます。

## MDT の特徴

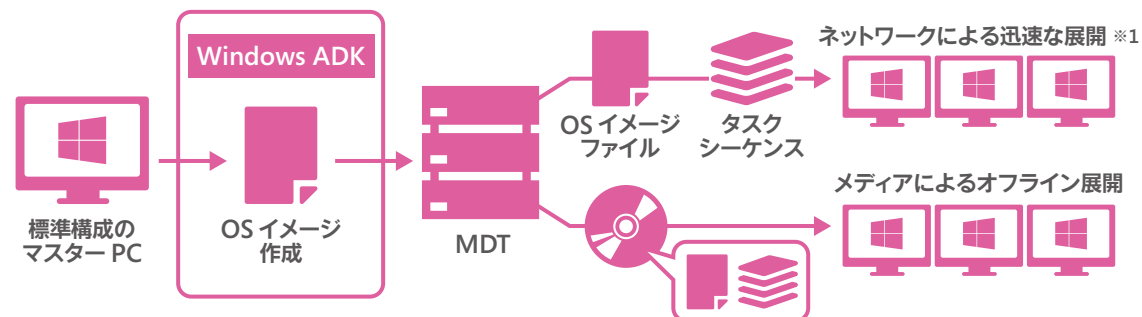
- ✓ 展開を自動化するためのツール、プロセス、ガイダンスを統合した展開ソリューション
- ✓ 展開後に必要なタスクシーケンスの仕組みを提供



注意

Windows 10 を展開するには、  
MDT 2013 Update 1 以降が必要です

## MDT + Windows ADK を使用した展開



※1 ネットワーク経由での展開 (PXE ブートの利用) には、Windows Server が必要です。

## MDT 2013 Update 1 のシステム要件

### MDT がインストール可能な OS

- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Windows 7
- Windows 8 / 8.1
- Windows 10

### 必要なコンポーネント

- Windows ADK for Windows 10
- Windows PowerShell
- Microsoft .NET Framework

Windows ADK と  
組み合わせれば  
展開を自動化できるぞ



■ MDT 2013 Update 2 のダウンロード : <https://technet.microsoft.com/ja-jp/windows/dn475741.aspx>

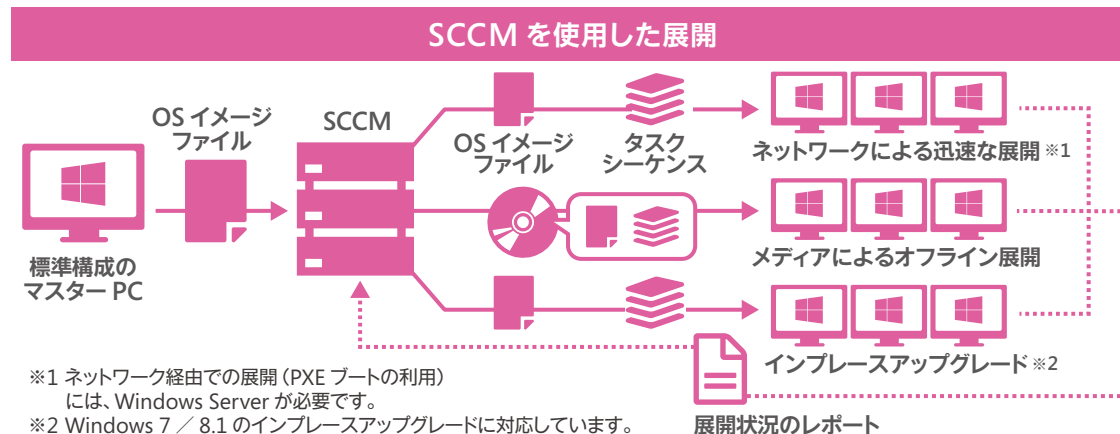


# System Center Configuration Manager (SCCM)

SCCM は、単なる展開ツールではなく、組織内にあるコンピュータの管理全般を担うソリューションです。  
Windows OS の展開はもちろん、更新プログラムやアプリ配信、デバイスの管理など、充実したクライアント管理機能を提供します。

## SCCM の特徴

- ✔ クライアント管理全般を担うソリューション
- ✔ イメージ展開だけではなく、更新プログラムやアプリ配信、デバイスの管理などをサポート
- ✔ 完全に自動化されたゼロタッチ展開にも対応
- ✔ MDT と統合することでさらなる機能追加が可能

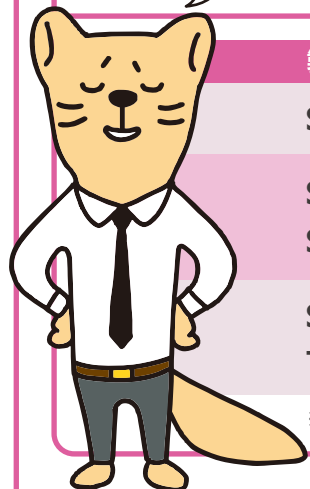


SCCM なら  
今、稼働中の PC にも  
展開可能だ

## SCCM のバージョン別の機能とサービスモデルへの対応

製品名とバージョン	Windows 10 でサポートされる機能	サービスモデルへの対応
System Center Configuration Manager	新機能および既存の機能	CB、CBB、LTSB
System Center 2012 Configuration Manager SP2	既存の機能	LTSB
System Center 2012 R2 Configuration Manager SP1	新機能および既存の機能	CB、CBB
System Center Configuration Manager 2007 SP2 + Compatibility Pack ※1	既存の機能 (OS 展開は不可。管理のみ)	LTSB

※1: Compatibility Pack は以下の URL からダウンロードできます → <https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/3044077>





## お役立ちトピック

# 困ったときは ここをチェック!

Windows 10 を以前のバージョンに戻す方法や、アップグレードに関するよくある質問への回答、さらには、法人での導入・展開に強いパートナー企業の紹介など、困ったとき、迷ったときに参考となる情報をまとめました。何かに困ったら、まずはここをチェックしましょう。



# 困ったときはここをチェック!

## 1. 以前のバージョンに戻す

Windows 10 を  
以前のバージョンに  
戻すには?



アップグレードしてみたものの、やっぱり以前のバージョンに戻したい…そんなときに役立つ旧バージョンに戻す方法を確認します。

35 ページへ

## 2. よくある質問

Windows 10 の  
よくある質問を  
確認しておきたい

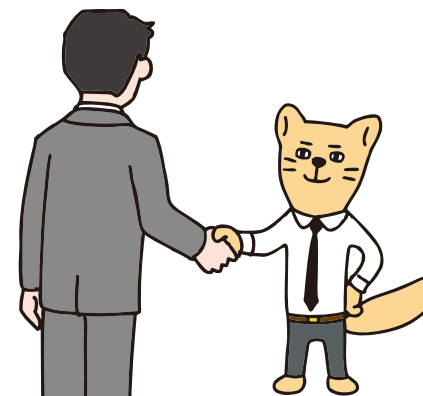


アップグレードに失敗した際の対処方法など、Windows 10 のアップグレードに関するよくある質問と回答を確認しておきましょう。

36 ページへ

## 3. パートナー企業のご紹介

信頼できる  
外部パートナーの  
力を借りたい



安心して任せることができる法人向け Windows の導入と展開に強いパートナー企業をご紹介します。

37 ページへ

# 以前のバージョンの Windows に戻す方法

2016年9月現在

Windows 10 では、[以前のバージョンの Windows に戻す] というオプション機能が用意されており、Windows 10 にアップグレードしてから 10 日以内(※1) であれば、アップグレード前の Windows に戻すことができます。

### アップグレード後 10 日間 ※1

アップグレード後 10 日間(※1) は、大きなシステムの変更(下記「条件」参照)がない限り、以前の Windows イメージ(アプリケーション、データ含む)に戻すことができます。

使用条件があるので、  
下にある5つの条件を  
確認してほしい

※1 お使いの PC で Windows 10 バージョン 1511 が実行されている場合は、1 か月以内であれば以前の OS に戻すことができます。

### 対象

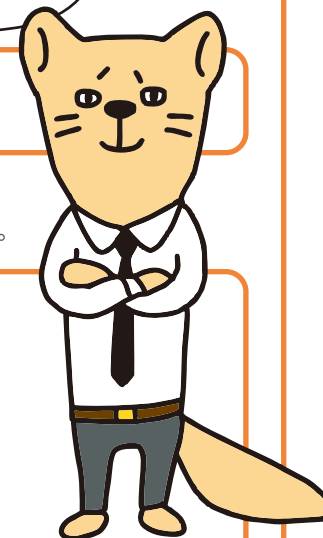
Windows 7 SP1 および Windows 8.1 からアップグレードした Windows 10

- 以前の Windows に戻した場合でも、アップグレード後に追加、作成した個人用ファイルは保持されます(念のためデータをバックアップすることをお勧めします)。
- ただし、アップグレード後にインストールしたアプリやドライバーならびに加えた設定変更はすべて削除されます。また一部のプログラムは再インストールが必要になります。

### 条件

[以前のバージョンの Windows に戻す] オプションを使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

- 1 アップグレード後、windows.old フォルダーと \$windows.~bt フォルダーの内容が保持されていること
- 2 アップグレード後、ディスクのクリーンアップを実施していないこと
- 3 アップグレード後、ユーザーアカウントを削除、移動していないこと  
(新しくユーザー アカウントを追加された場合は、以前の環境に戻す際に追加されたユーザー アカウントの削除を求められます)
- 4 Windows 7 / 8.1 へのサインインにパスワードを使っていた場合は、そのパスワードを知っていること  
(以前の Windows で設定していたパスワードが必要になります)
- 5 Windows 10 へのアップグレードの際に、容量不足などで外部ストレージ(USB、SD ドライブ)を使ってアップグレードした場合は、その使用した外部ストレージ(USB、SD ドライブ)があること



■ 詳しい手順についてはこちらをご参照ください [https://blogs.technet.microsoft.com/cs3\\_windows/2015/08/13/windows-10-windows-26/](https://blogs.technet.microsoft.com/cs3_windows/2015/08/13/windows-10-windows-26/)

# Windows 10 のアップグレードに関する FAQ

**Q** インプレースアップグレードで 32 ビットから 64 ビットへの変更は可能ですか？

**A** いいえ。インプレースアップグレードで 32 ビットから 64 ビットへの変更はできません。

**Q** Windows 10 Pro から Windows 10 Enterprise にアップグレードできますか？

**A** できます。[システム] 中にある [プロダクトキーの変更] でプロダクトキーを変更してください。

**Q** Windows 10 へのアップグレードに失敗してしまうのですが、どうすればよいですか？

**A** <https://sway.com/45ogSnK3Bvnhx8Sc> に対処方法を掲載しておりますのでご確認ください。

**Q** Windows 10 でライセンス認証に失敗してしまうのですが、どうすればよいですか？

**A** <https://sway.com/WYKae1A3DkrT80BU> に対処方法を掲載しておりますのでご確認ください。

**Q** データのバックアップ方法について詳しく知りたいのですが？

**A** Windows 7 / 8.1 のバックアップ方法については下記のページをご確認ください。

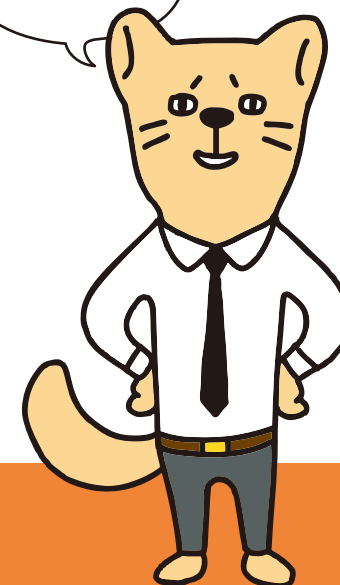
● Windows 7 [https://blogs.technet.microsoft.com/cs3\\_windows/2015/07/28/windows-7/](https://blogs.technet.microsoft.com/cs3_windows/2015/07/28/windows-7/)

● Windows 8.1 [https://blogs.technet.microsoft.com/cs3\\_windows/2015/07/28/windows-8-1-2/](https://blogs.technet.microsoft.com/cs3_windows/2015/07/28/windows-8-1-2/)

■ その他の「Windows 10 へのアップグレードに関する FAQ」は下記をご覧ください。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/12435/windows-10-upgrade-faq>

FAQ の続きは  
Web にあるぞ



## Windows 10 の導入を支援するパートナー企業

# 法人向け Windows 10 の導入は パートナー各社へご相談ください

マイクロソフトのパートナー企業は、マイクロソフトと連携を図りながら、  
企業のご要望に沿ったサービスの提案、導入、サポートを提供しています。  
Windows 10 の導入はパートナー各社へぜひご相談ください。



■マイクロソフト パートナー各社のご紹介ページはこちら  
<http://aka.ms/msbcwin10p>

The screenshot shows the MSBC website interface. At the top, there's a Microsoft logo and 'MSBC Microsoft Business Connection'. Below that, a navigation bar includes 'ホーム', 'ビジネス', '業界ソリューション', and 'Web フォーラム'. The main content area features a 'パートナーのご紹介' (Introduction of Partners) section with a photo of two business professionals. Below this, a grid of partner logos is displayed, including iSystems, Inventit, SPECTRUM, NEC, 大塚商会, jena, DELL, TOSHIBA, JBS, PSC, and FUJISOFT. Each partner tile includes a logo, company name, and a '詳細を見る' (View Details) button. On the right side, there's a 'Windows 10 for Business' section with various links and a '関連資料' (Related Materials) section at the bottom.